



③ 実語教童子教(鱗形屋孫兵衛板)

(初版・明和4年^{めいわ})

原本：縦 26.0cm×横 18.5 cm

うろこがたやま ごべえ よしわらさいけん

鱗形屋孫兵衛は、吉原細見などを刊行した江戸の地方問屋です。恋川春町の『金々先生 栄花夢』は黄表紙の出版の先駆けとなるもので、蔦屋重三郎が台頭するまで、江戸の黄表紙出版をけん引する存在でした。

じつごきょうどうじきょう

『実語教 童子教』は、寺子屋などの庶民教育の場において“読み”“書き”の教科書として用いられたテキストです。このような江戸の出版物が、上州にも数多く伝わっています。各地の寺子屋や家庭教育などで活用されていき、村の教育力が高まっていきました。



前橋市総社町 木村善一家文書
P 9 1 0 2 ・ No. 4 6 9